



小久保 照枝 議員 公明党

問 女性目線の防災対策を

答 思いやりのある配慮が必要

問 防災会議の取り組み内容は。

答 (総務部長) 防災上の最上位の計画である「地域防災計画」について本市の状況を踏まえ協議している。

問 会議の対象人数は。

答 14名。

問 女性委員の数は。

答 1名。

問 女性や子育て家庭、要介護に配慮した避難所運営の強化している点は。

答 「乳幼児のための災害への備え」としてパンフレットを渡し、非常時持出品として必要なものを各家庭で備えるなど啓発強化をしている。

問 避難行動要支援者用トイレの配備も進めている。

答 感染予防対策としての備蓄品は。

問 マスク、フェイスシールド、消毒液、体温計などを新たに準備。

答 段ボールベッドを備蓄しては。

問 仕切りや簡易ベッドなどの段ボールは、保管場所など課題があり、県と中日本段ボール工業組合で協定を締結している。

答 液体ミルクの備蓄は。市内スーパーとの災害時の物資調達協定品目に追加し、優先的に調達できるようにした。

問 災害対応型カップ式自販機を設置してはどうか。

答 公共施設内設置の自販機事業者に要望し、協定の締結が必要を確認する。

問 保育所を「女性・子育て専用の避難所」にできないか。

答 優先しての指定は、避難者が殺到する状況下では困難と考える。

問 「移動式スーパー」の導入を

答 買い物支援サービス導入で検討

問 本市において75歳以上の単独世帯数は。

答 (健康福祉部長) 1154世帯。

移動式スーパー



問 夫婦二人だけの世帯数は。

答 782世帯。

問 買い物困難者の状況は。

答 把握していない。

問 災害時にも、救護車として役立つ「移動式スーパー」を大手スーパーに呼びかけて導入できないか。

答 多くのメリットがある反面、個人事業主が車両購入した上、研修を受講した後の開始になるため、担い手が見つからないなど課題がある。

市内で、同じような形態で別事業者が移動販売をしている。



災害対応型カップ式自動販売機